



上小原小・中学校 小中一貫教育だより

つなぐ



夢と誇りを胸に自ら未来を拓き、たくましく、共に生きる「上小原の子」

この「だより」は、本小・中学校の取組「小中一貫教育推進校」としての取組を紹介するものです。

今回は「基礎編」です。

本小・中学校は鹿屋市のモデル指定校として、H27～H29の3年間、様々な実践や取組を進めてきました。指定期間は終了しましたが、鹿屋市は令和2年度までに市内全学校で「小中一貫教育」を開始することになっており、上小原での取組が活かされるのではないかと期待しています。



今さらだけど、「小中一貫教育」って何？

小中一貫教育が広まりはじめたきっかけからご説明します。



○中学1年生の不登校生徒数がかなり多い
→いわゆる「**中1ギャップ**」小中学校間の差異、中学校の学習・生活への過度な不安が原因です。

○以前に比べて児童生徒の発達が早期化した
→そもそも「小6年間、中3年間」と決まったのは**昭和20年代**…。児童生徒はその頃と比べると**2年以上の発達差**があると言われていました。現在は**小4～5年で「発達上の段差」**が来ているとか。ですから、これまで中学校段階の特質とされてきたものをある程度小学校段階に導入したほうが良いという考えが出てきたのです。

小中9年間を現行の6-3という制度の下で、**前期(小1～小4)中期(小5～中1)後期(中2～中3)**の4-3-2という学年段階の区切りで一貫教育を実施する取組も増えたのです。

…他にも小学校への外国語の導入など学習指導要領の改訂や、少子化の問題等ありますが、

高学年での教科担任制導入もこの流れです。

小中学校それぞれに取り組んできた教育活動を**義務教育9年間の視点**で見直すことで小中間の段差を少なくし、**小中の接続を円滑にしていく**のが小中一貫教育なのです。



上小原小・中学校は「小中一貫校」なの？

文科省が制度化した「小中一貫校」「義務教育学校」ではありません。上小原小・中学校は「施設分離型小中一貫教育校」です。



小中一貫校：同じ施設内で、小学校の先生と中学校の先生が一体となって、それぞれが持つ免許の授業をする学校



上小原小・中学校は**1小1中**であることと、**立地のよさ**を生かして、一般的な小中一貫教育校ではめずらしい「行専合同実施」も行っています。また、高学年は中学生に、中学校は小学校に**寄せ**てもいいところは工夫して取り入れています。

小中一貫教育への保護者の関わりについては、地域の小中一貫教育校なので、小中の保護者で無理なく児童生徒を見守る態勢になるといいと思います。

もともとは子どもたちのための小中一貫教育ですが、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の要素も含みますから、保護者や地域住民が一体となって、小中の子どもたちに関われるようになってほしいと思います。

現在、小中一貫教育に取り組んできて5年目。成果とともに課題も多いのが現状です。一つ一つの課題を解決しながら多くの方に応援していただける学校区を目指したいと思います。

次号ではコミュニティスクールについて紹介します。